

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104878
法人名	有限会社 ファイン・ケア・サービス
事業所名	グループホーム優輝
所在地	愛媛県松山市北斎院町476番地1
自己評価作成日	平成21年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族通信や優輝新聞が、とても充実していて、外部の方には優輝の良さが伝えられ、家族の方には入居者さんが安心して暮らしている事を理解して頂けるようになっている。また、職員が常に新しい知識や情報を得られる様に、会社は研修を積極的に受講できるよう様々な配慮を行っており、職員の資質の向上に繋がっている。さらに社内研修も2か月に一度、定期的で開催しており、濃い内容になっているので、毎日のケアにとってもプラスになっている。『職員が楽しくなければいいケアは出来ない』と考え、様々な支援を行っている。また『職員が不安に思っている事は利用者さんの急変時の対応』であり、その解消のため、2か月に1度、定期的にAED救命救急講習会を実施しており、不安が自信に繋がる努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者でもある管理者の高齢者ケアに対する熱い思いに職員が共感して運営されている。そのため、職員によってスキルの差があるとしても、利用者への対応には統一感がある。開設から5年を経過しているが、管理者や職員が機能低下を防ぐために「生活リハビリ」に力を入れていることもあってか、利用者の入れ替わりが少なく介護状態の変化も少ない。また、終末期ケアの実践のために、救命救急の講習会を2か月に1回開催している。ホームはのどかな住宅街に建ち、川をはさんで公園がある好立地であることから、気軽に散歩でき、近隣の方と立ち話に花を咲かせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優輝

(ユニット名) 1Fユニット

記入者(管理者)

氏名 上 岩 茂

評価完了日 平成 21年 11月 7日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものではなく、職員に『どんなグループホームにしたいですか?』というアンケートを実施して、職員の意見や思いを集約したものになっている。また日々、運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。さらに社内研修でも、理念をテーマに、話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) ホーム開設の準備段階から地域との話し合いがもたれているため、自然と理念にも「地域と共に」という精神が反映されている。職員からは「理念に共感して」という話が聞かれ、理念がホーム運営の根幹をなしていることがうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 経営理念に『地域に貢献出来る会社を目指す』と明記し、地域から何かしてもらおう関係ではなく、地域の社会資源の一つとして、地域住民のお役に立てるホーム作りを目指している。また、救命救急講習会や、防災訓練を地域の方と一緒に、毎年実施している。『まもるくんの家』にも登録している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域とは「してもらう」という一方通行の関係にならないことを、連携の重要なポイントとしている。そのため、ホームを地域の社会資源のひとつとして位置づけ、AEDのような専門的な設備や介護知識等を、機会がある毎に地域に対して提供・情報発信するよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回、欠かさず開催しており、会議の中で、利用者の日常生活の様子や、支援の様子を紹介し、認知症やグループホームに対する理解を深める努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で話し合った内容を、優輝新聞やカンファレンスを通して、全職員が把握し、話し合いを行い、ケアの質の向上に役立てている。また毎回数名の職員が参加し、直接地域の方の声を聞く事が出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、ホームの運営を地域住民や関係機関に理解してもらおう場と捉えて会議を開催している。準備や企画には時間を費やし、議題や報告を多く盛り込み、利用者へのサービス向上のために真摯に取り組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に、松山市介護保険課の職員や、松山市社協及び地域包括支援センター職員にも参加して頂き、ホームの状況を報告し、理解を得られるよう努力している。また、松山市が行っている集団指導や研修会にも積極的に参加し、協力し合える体制づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、市担当者等の関係者も利用者の生活を支援するチームの一員であるとの視点を持ち、積極的に連絡や相談を行っている。昨年からは社会福祉協議会とも関わりを持ち、ホームの質の向上のために協力関係の構築に熱心に努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 社内研修のテーマとして、全職員を対象に勉強会を開催し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、身体拘束の具体的な禁止項目の一覧を、職員がいつでも見れるところに置いている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の指定基準を正しく理解した上で、安全と自由について話し合いを繰り返している。ベッド柵等についても家族等に丁寧に説明し、ホームの考えと家族の意向が一致するよう話し合いを重ねている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修のテーマとして、全職員を対象に勉強会を開催し、虐待防止の徹底を図っている。また、高齢者虐待防止法に関する資料を、玄関に置き、職員がいつでも見れるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通して、職員全員が、権利擁護に関する制度の理解を深めている。また、管理者が愛媛県社会福祉士会に所属しており、必要な時には協力を得られる体制が作れている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時に、ホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容等について、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得出来るよう、努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にて、家族さんの意見等を言って頂き、改善や取り組みが出来るよう努力している。家族が面会に来られた際に、生活の様子等を説明し、家族からも意見や要望をお聞きして、日々のケアに活かしている。 (外部評価) 開設以来、「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞」を毎月発行している。これを継続することで、家族との会話が豊かになり、繋がりをより密にしている。また、家族の来訪時には、利用者の近況報告を行いながら意見を聞き出すよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンス等を通し、職員から気楽に意見が出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて、迅速な対応を図っている。 (外部評価) さまざまな課題がおこった場合にはホーム内でプロジェクトチームを編成している。チームのリーダーを職員が担うことで、職員間の話し合いや管理者への報告・相談の機会も多くなっている。職員が意見を表明しやすい環境づくりとして、有効な取り組みといえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 『職員が楽しく働けなければいいケアは出来ない』と考えており、職員が働きやすい環境作りに全力で取り組んでいる。また、職員が自分の仕事について評価出来るシステムを作っている。その際、自分の考えを会社に伝える機会も設けており、常に適正評価を心掛け、職員が向上心を持って働ける環境づくりを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修を2カ月に1度、救命救急講習を2カ月に1度実施している。また、外部の研修に関しては、案内があれば、職員に開示し、希望者を募り、参加してもらっている。その際、職員が研修を受けやすいよう、研修費用は全額会社負担としている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の開催する職員研修会や相互研修に参加したり、地域包括支援センターの主催する包括単位の同業者の研修会にも積極的に参加し、交流を深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 常に利用者が感じている事に、早期に気づけるために、利用者に接する時間をなるべく多く取るよう心掛けている。些細な事でも、見落としの無いように、利用者が安心して過ごせるよう、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントの際、ご家族等から十分な聞き取りを行い、本人の不安解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や主治医などと相談・協力し合いながら、必要な医療や介護、サービスを提供出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 『利用者のために』ではなく『利用者の立場に立った』ケアの実践を心掛けており、利用者の喜びを私達の喜びとして共感できる事を理念とし、毎日の生活で喜怒哀楽を共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族通信や優輝新聞を毎月発行することにより、利用者のホームでの生活を知ってもらうと共に、ホームのケアの方針や、利用者に幸せに暮らして頂きたいという私達職員の思いを理解して頂けるよう、情報公開及び信頼関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人の方が面会に来られた時は、利用者について現在の様子を伝え、帰る際には、記念写真を取り、後日郵送するなどして、関係を断ち切る事の無いようにしている。 (外部評価) 利用者の培ってきた人間関係を大切にするという思いから、家族以外が訪ねて来た場合にも、再度訪問してもらえるような対応を心がけている。利用者の日常生活を綴っている「家族通信ほのぼの」等は、友人や知人にホームでの生活を知ってもらう方法としても、有用に活用されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握して、共に出来る事や、助け合いながら出来ることを支援し、孤立しない様配慮している。また、利用者の希望により、仲良しの方との一緒の入浴や散歩等にも取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などでやむを得ず退居になった場合も、病院へ御見舞に行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。入院時には、介護サマリーを作成し、ホームでの生活が分かるよう情報提供に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや希望、意向等の把握に努めている。希望に添えない等、実現が困難な場合は、ケアカンファレンス等で、本人の立場に立って考え、話し合いを行い、利用者本人にとって、一番いい方法を導き出すよう努力している。 (外部評価) 利用者の思いや意向を深く理解するために、利用者それぞれに個人ノートを作り、職員が聞き得た生活歴を記載している。個人ノートを重視して、利用者本位のケアに取り組んでいる。職員は、記載事項を積み重ねることで、利用者の背景まで理解が深まったことを実感している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も、本人やご家族との会話の中で、理解し、把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の健康観察は看護部が行っている。『いつもと違う様子はないか』の早期把握に努めている。また、その日の健康状態、活動の様子を見て、出来る事・出来ない事を把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、毎月のケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画作りやモニタリングに活用している。 (外部評価) ケア会議でのモニタリングは、評価票にまとめることで客観的に分析し、それを基に職員全員で振り返りを行っている。評価票は、介護目標をデータ的に評価することも可能で、利用者や職員とが達成感を味わう喜びにもつながっている。また、これらを家族にも報告することで新たな意見を聞くことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や、ケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 多機能施設で無いため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや訪問美容、ボランティア等の外部サービスを利用できるよう、柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの商店に買い物に出掛けたり、公園に散歩に出掛け、自然とのふれあいを楽しんでいる。保育園の子供たちを招いて、子供たちとの交流を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者及びご家族の希望を尊重し、納得されて適切な 医療が受けられるよう支援している。ご家族による病 院受診時もホームでの様子が分かるよう情報提供して いる。皮膚科・眼科・歯科等の専門医の場合は、個々 の病院に、管理者か看護師が同行し、受診するよう にしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を支援 している。その他専門的な医療機関の受診には管理者 または看護師が同行し、医療機関との間で情報の漏れ がないよう配慮している。ホームの協力医療機関から の往診もあり、利用者を全般的に把握することが可能 となっており、医療面での安心感が高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員と看護職の間には、円滑に情報が共有でき るように日報が作成されており、どんな些細な事柄で も、すぐ記入し、必要に応じて、主治医との連携を取 り、早期受診が可能な体制を取っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期 退院のための支援を行っている。また、日頃から、主 治医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも協力 して頂けるよう関係を築いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアの指針と、ホームで出来る事、出来な い事等を明記した承諾書を作成しており、ご家族の希 望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 また、ターミナルケアに理解のある病院に、協力病院 になってもらっている。</p> <p>(外部評価) 開設後すぐに看取りを経験しており、その経験から家 族の意向の重要性や協力の必要性を深く認識してい る。そのため、家族には初回面接時に説明するだけ でなく、その後も機会を見て話し合いを継続している。</p>	<p>看取りの経験から数年が経過しているため、経験した 職員が少なくなっている。終末期についてのホームの 方針は会議等を通じて職員間で話し合っているが、特 に未経験の職員には、先輩職員の実践等を通して職員 間での共有を図る取り組みを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2か月に1度、セコムとの協力を得て、AED救命救急講習会を開催し、急変時の対応の訓練を繰り返し行っており、職員全員が対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 社内での体制を整えると共に、1年に1度行われる地域の自主防災訓練に参加し、災害時に地域住民の方にも、協力が得られるような取り組みをしている。 (外部評価) ホーム内で行う防災訓練だけでなく、地域の自主防災訓練にも参加している。また、緊急時への対応を身につけるため、2か月に1回は救急救命についての研修を受けており、職員から「頭で考えなくても自然と体が動いて行動できるようになった」との話が聞けるなど、利用者の安全確保に熱心に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重したケアに取り組んでおり、単調な声掛けや対応にならないように、個々の性格や体調等を観察し、声のトーンや大きさに注意した支援を行っている。 (外部評価) 利用者への声かけや誘導の姿勢は職員により異なるが、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを全職員が持ってケアにあたっている。職員は、利用者の状態に合わせて娘になったり姉妹になったりと、臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の『自分で出来る』『自分で選べる』を尊重した自立支援のケアを心がけている。職員の立場からではなく、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。生活の主体者は利用者であることを、常に認識し、出来ない事だけ支援するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は利用者個々の状態や、希望に合わせた対応を心がけている。また、ホームとしては、他の利用者に迷惑を掛けない範囲の自由を尊重しており、利用者一人一人のペースで自由に生活出来るよう支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際、季節に合った好きな洋服を選んでもらっている。また、理容・美容については、利用者の希望により、訪問美容師で対応している。カットだけでなく、毛染めなどのサービスも利用出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おかずの盛り付けやお茶を入れてもらったり、食材の皮むき等、出来る事があれば、お願いをしている。利用者と同じ食事を取ることで、会話も弾み、食事が楽しいと思ってもらえるよう努めている。食器洗いや、食器拭きもお願いをして、職員と一緒にしている。 (外部評価) 昼食時に食事が進まない利用者に、隣の方が「それ食べな、おいしいよ」と声をかけ、それを職員が見守っている風景はほのぼのとして温かい。食後の食器拭き等、利用者の状態に応じて役目を果たしてもらっており、笑顔で雑談を交えて作業をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師・看護師と連携を取りながら、その人に合わせた栄養バランス、水分確保が出来るように支援している。一人ひとりの状態に合わせた、食事の支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯が無い利用者には、ハミングッドを利用し、清潔が保てるように支援している。口腔ケアが習慣になる様に、声かけの工夫をしている。入れ歯の方も定期的に、入れ歯洗浄剤を用い、清潔を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、おむつ使用や失禁の軽減に努力している。	
			(外部評価) 排泄の自立支援をホームの目標として掲げており、排泄チェック表等を通して利用者それぞれの排泄リズムを把握し、トイレへの誘導に力を入れている。また、水分摂取量等による変化や、気温の影響等による季節的な対応にも目を向けており、布パンツ、パッド、紙おむつ等を必要に応じて適切に使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のリズムを把握し、なるべく同じ時間帯にトイレ誘導し、マッサージなどを施すようにしている。食事もお通じを促すような食材を利用する等の努力をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。また、入浴を度々拒否される利用者に対しても、声かけの工夫を行っている。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多いため、それぞれの入浴のリズムが確立されており、それに沿った適切な入浴支援を行っている。「今からお風呂なの」と食後話しかけてきた利用者からは、入浴を楽しみにしている様子が感じられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の希望や、生活習慣に即した支援を行っている。本人の生活習慣を尊重し、その方に合った睡眠がとれるよう支援している。また、昼夜逆転にならないように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書をいつでも職員が確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時等、様子観察が必要な時期については、状況の変化を職員全員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員は日々の会話の中で、本人の生活歴や好みを観察し、本人の得意な事は、職員と一緒にいたりしている。時には、教えてもらったりしながら、本人の出来る力を引き出すような支援をしている。嗜好品も楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日一度は外に出て、今の季節を感じて頂けるよう支援している。また、ご家族との外出の際も、服薬準備等の外出支援を行っている。必要性に応じて、ご家族での外食時の、送迎支援も行っている。 (外部評価) 外出支援プロジェクトの成果が出ており、外出は日常的に行っている。職員は、利用者の気分転換には外出が重要であると考え、川を挟んでホームの前にある公園に出かけ、外気浴を気軽に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんから預かっているお金や立替払いで、ジュースを買っていただいたり、自分のおやつをスーパーで選んだり、買い物支援も出来る限り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 電話では、取り次ぎをするだけでなく、プライバシーに配慮しながら、仲を取り持つ必要がある場合は援助するようしている。手紙では、プライバシーに配慮しながら、本人の同意のもとで、読み聞かせを行ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの椅子やソファ等で、利用者が各々好きな場所で、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、ホームの周りに大きな建物が無く、景色を含めた環境がすごく良いため、利用者も落ち着いて生活が出来る。</p> <p>(外部評価) 全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、スペースが広いこともあり、開放的である。非常用の出入り口として増築した屋外階段の踊り場も見通しの良いベランダとなっているため、お茶を楽しむスペースにも活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の希望や人間関係等により、いつも座る場所を決めている。時には席替えも必要なケースもあるが、トラブルにならない様に考慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはエアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと大きなものは、ホームで用意した物を使って頂いている。その他馴染みの物の持ち込みは、制限していないので、本人や家族の希望により、自由に持ち込んで頂いている。</p> <p>(外部評価) ホームの備品としてベッド・洋服ダンス等が備え付けである。また、利用者の持ち込んだ家具類や、ホームでの生活の写真や絵なども飾られ、それぞれに特色のある部屋となっており、居心地よく過ごせる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 出来るだけ車イスに頼らない生活を送って頂くために、また廃用症候群の予防のため、配置や手すりの必要性などを細かに観察し、少しでも長く安全に自分の足で歩いて頂けるように配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104878
法人名	有限会社 ファイン・ケア・サービス
事業所名	グループホーム優輝
所在地	愛媛県松山市北斎院町476番地1
自己評価作成日	平成21年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族通信や優輝新聞が、とても充実していて、外部の方には優輝の良さが伝えられ、家族の方には入居者さんが安心して暮らしている事を理解して頂けるようになっている。また、職員が常に新しい知識や情報を得られる様に、会社は研修を積極的に受講できるよう様々な配慮を行っており、職員の資質の向上に繋がっている。さらに社内研修も2か月に一度、定期的で開催しており、濃い内容になっているので、毎日のケアにとってもプラスになっている。『職員が楽しくなければいいケアは出来ない』と考え、様々な支援を行っている。また『職員が不安に思っている事は利用者さんの急変時の対応』であり、その解消のため、2か月に1度、定期的にAED救命救急講習会を実施しており、不安が自信に繋がる努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者でもある管理者の高齢者ケアに対する熱い思いに職員が共感して運営されている。そのため、職員によってスキルの差があるとしても、利用者への対応には統一感がある。開設から5年を経過しているが、管理者や職員が機能低下を防ぐために「生活リハビリ」に力を入れていることもあってか、利用者の入れ替わりが少なく介護状態の変化も少ない。また、終末期ケアの実践のために、救命救急の講習会を2か月に1回開催している。ホームはのどかな住宅街に建ち、川をはさんで公園がある好立地であることから、気軽に散歩でき、近隣の方と立ち話に花を咲かせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優輝

(ユニット名) 2Fユニット

記入者(管理者)

氏名 上 岩 茂

評価完了日 平成 21年 11月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものではなく、職員に『どんなグループホームにしたいですか?』というアンケートを実施して、職員の意見や思いを集約したものになっている。また日々、運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。さらに社内研修でも、理念をテーマに、話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) ホーム開設の準備段階から地域との話し合いがもたれているため、自然と理念にも「地域と共に」という精神が反映されている。職員からは「理念に共感して」という話が聞かれ、理念がホーム運営の根幹をなしていることがうかがえる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 経営理念に『地域に貢献出来る会社を目指す』と明記し、地域から何かしてもら関係ではなく、地域の社会資源の一つとして、地域住民のお役に立てるホーム作りを目指している。また、救命救急講習会や、防災訓練を地域の方と一緒に、毎年実施している。『まもるくんの家』にも登録している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域とは「してもらう」という一方通行の関係にならないことを、連携の重要なポイントとしている。そのため、ホームを地域の社会資源のひとつとして位置づけ、AEDのような専門的な設備や介護知識等を、機会がある毎に地域に対して提供・情報発信するよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回、欠かさず開催しており、会議の中で、利用者の日常生活の様子や、支援の様子を紹介し、認知症やグループホームに対する理解を深める努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で話し合った内容を、優輝新聞やカンファレンスを通して、全職員が把握し、話し合いを行い、ケアの質の向上に役立てている。また毎回数名の職員が参加し、直接地域の方の声を聞く事が出来るようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、ホームの運営を地域住民や関係機関に理解してもらおう場と捉えて会議を開催している。準備や企画には時間を費やし、議題や報告を多く盛り込み、利用者へのサービス向上のために真摯に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に、松山市介護保険課の職員や、松山市社協及び地域包括支援センター職員にも参加して頂き、ホームの状況を報告し、理解を得られるよう努力している。また、松山市が行っている集団指導や研修会にも積極的に参加し、協力し合える体制づくりに努めている。	
			(外部評価) 管理者は、市担当者等の関係者も利用者の生活を支援するチームの一員であるとの視点を持ち、積極的に連絡や相談を行っている。昨年からは社会福祉協議会とも関わりを持ち、ホームの質の向上のために協力関係の構築に熱心に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内研修のテーマとして、全職員を対象に勉強会を開催し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、身体拘束の具体的な禁止項目の一覧を、職員がいつでも見れるところに置いている。	
			(外部評価) 身体拘束の指定基準を正しく理解した上で、安全と自由について話し合いを繰り返している。ベッド柵等についても家族等に丁寧に説明し、ホームの考えと家族の意向が一致するよう話し合いを重ねている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修のテーマとして、全職員を対象に勉強会を開催し、虐待防止の徹底を図っている。また、高齢者虐待防止法に関する資料を、玄関に置き、職員がいつでも見れるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通して、職員全員が、権利擁護に関する制度の理解を深めている。また、管理者が愛媛県社会福祉士会に所属しており、必要な時には協力を得られる体制が作れている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時に、ホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容等について、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得出来るよう、努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にて、家族さんの意見等と言って頂き、改善や取り組みが出来るよう努力している。家族が面会に来られた際に、生活の様子等を説明し、家族からも意見や要望をお聞きして、日々のケアに活かしている。 (外部評価) 開設以来、「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞」を毎月発行している。これを継続することで、家族との会話が豊かになり、繋がりをより密にしている。また、家族の来訪時には、利用者の近況報告を行いながら意見を聞き出すよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンス等を通し、職員から気楽に意見が出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて、迅速な対応を図っている。 (外部評価) さまざまな課題がおこった場合にはホーム内でプロジェクトチームを編成している。チームのリーダーを職員が担うことで、職員間の話し合いや管理者への報告・相談の機会も多くなっている。職員が意見を表明しやすい環境づくりとして、有効な取り組みといえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 『職員が楽しく働けなければいいケアは出来ない』と考えており、職員が働きやすい環境作りに全力で取り組んでいる。また、職員が自分の仕事について評価出来るシステムを作っている。その際、自分の考えを会社に伝える機会も設けており、常に適正評価を心掛け、職員が向上心を持って働ける環境づくりを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修を2カ月に1度、救命救急講習を2カ月に1度実施している。また、外部の研修に関しては、案内があれば、職員に開示し、希望者を募り、参加してもらっている。その際、職員が研修を受けやすいよう、研修費用は全額会社負担としている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の開催する職員研修会や相互研修に参加したり、地域包括支援センターの主催する包括単位の同業者の研修会にも積極的に参加し、交流を深めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に利用者本人から、希望や要望や不安等を細かく聴き、安心して生活して頂けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居にご家族からも、希望や要望、不安に思っている事を細かく聴き、出来る限りその思いに沿えるよう、そして安心してお任せして頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や主治医などと相談・協力し合いながら、必要な医療や介護、サービスを提供出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援表を作成し、本人の出来る喜びを増やす努力をし、暮らしを共にする者同士が、お互い助け合っ て、円滑に共同生活が送れるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの生活の情報をご家族に伝え、難しい部分の協力を得たり、情報を頂いたりし、共に本人を支えていくパートナーとして、信頼を深めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔馴染みの友人や、近所の方々が面会に来られた際には、写真を写し、後日送付する等し、関係が継続するように支援している。 (外部評価) 利用者の培ってきた人間関係を大切にするという思いから、家族以外が訪ねて来た場合にも、再度訪問してもらえるような対応を心がけている。利用者の日常生活を綴っている「家族通信ほのぼの」等は、友人や知人にホームでの生活を知ってもらう方法としても、有用に活用されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を日頃から観察し、気の合う方同士での入浴・散歩の支援をしたり、孤立しないように対応の難しい利用者の場合は、職員が間に入って、円滑に關係が保てるような努力をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などでやむを得ず退居になった場合も、病院へ御見舞に行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。入院時には、介護サマリーを作成し、ホームでの生活が分かるよう情報提供に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 買い物が好きな方には、外へ買い物に行けるような支援をしたり、利用者の趣味等が活かせるように努めている。困難な場合は、カンファレンス等で話し合い、良い方法が導き出されるように努力している。 (外部評価) 利用者の思いや意向を深く理解するために、利用者それぞれに個人ノートを作り、職員が聞き得た生活歴を記載している。個人ノートを重視して、利用者本位のケアに取り組んでいる。職員は、記載事項を積み重ねることで、利用者の背景まで理解が深まったことを実感している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も、本人やご家族との会話の中で、理解し、把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の健康観察は看護部が行っている。『いつもと違う様子はないか』の早期把握に努めている。また、その日の健康状態、活動の様子を見て、出来る事・出来ない事を把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、毎月のケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画作りやモニタリングに活用している。 (外部評価) ケア会議でのモニタリングは、評価票にまとめることで客観的に分析し、それを基に職員全員で振り返りを行っている。評価票は、介護目標をデータ的に評価することも可能で、利用者と職員とが達成感を味わう喜びにもつながっている。また、これらを家族にも報告することで新たな意見を聞くことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や、ケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 多機能施設で無いため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや訪問美容、ボランティア等の外部サービスを利用できるよう、柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの商店に買い物に出掛けたり、公園に散歩に出掛け、自然とのふれあいを楽しんでいる。保育園の子供たちを招いて、子供たちとの交流を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者及びご家族の希望を尊重し、納得されて適切な 医療が受けられるよう支援している。ご家族による病 院受診時もホームでの様子が分かるよう情報提供して いる。皮膚科・眼科・歯科等の専門医の場合は、個々 の病院に、管理者か看護師が同行し、受診するよう にしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を支援 している。その他専門的な医療機関の受診には管理者 または看護師が同行し、医療機関との間で情報の漏れ がないよう配慮している。ホームの協力医療機関から の往診もあり、利用者を全般的に把握することが可能 となっており、医療面での安心感が高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員と看護職の間には、円滑に情報が共有でき るように日報が作成されており、どんな些細な事柄で も、すぐ記入し、必要に応じて、主治医との連携を取 り、早期受診が可能な体制を取っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期 退院のための支援を行っている。また、日頃から、主 治医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも協力 して頂けるよう関係を築いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアの指針と、ホームで出来る事、出来な い事等を明記した承諾書を作成しており、ご家族の希 望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 また、ターミナルケアに理解のある病院に、協力病院 になってもらっている。</p> <p>(外部評価) 開設後すぐに看取りを経験しており、その経験から家 族の意向の重要性や協力の必要性を深く認識してい る。そのため、家族には初回面接時に説明するだけ でなく、その後も機会を見て話し合いを継続している。</p>	<p>看取りの経験から数年が経過しているため、経験した 職員が少なくなっている。終末期についてのホームの 方針は会議等を通じて職員間で話し合っているが、特 に未経験の職員には、先輩職員の実践等を通して職員 間での共有を図る取り組みを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2か月に1度、セコムの協力を得て、AED救命救急講習会を開催し、急変時の対応の訓練を繰り返し行つて、職員全員が対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 社内での体制を整えると共に、1年に1度行われる地域の自主防災訓練に参加し、災害時に地域住民の方にも、協力が得られるような取り組みをしている。 (外部評価) ホーム内で行う防災訓練だけでなく、地域の自主防災訓練にも参加している。また、緊急時への対応を身につけるため、2か月に1回は救急救命についての研修を受けており、職員から「頭で考えなくても自然と体が動いて行動できるようになった」との話が聞けるなど、利用者の安全確保に熱心に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重したケアに取り組んでおり、単調な声掛けや対応にならないように、個々の性格や体調等を観察し、声のトーンや大きさに注意した支援を行っている。 (外部評価) 利用者への声かけや誘導の姿勢は職員により異なるが、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを全職員が持ってケアにあたっている。職員は、利用者の状態に合わせて娘になったり姉妹になったりと、臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者を日々観察した上で、その時の状況、その場に合わせた働きかけを行えるように支援している。また、職員が決め付けるのではなく、利用者にならない程度の選択権を与え、自分で選べるような支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物支援等を取り入れ、より快適に生活できるようにしたり、ゆったりとした空間で、落ち着いた生活が出来るように気配りしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) TPOに合わせた服装を心掛け、着替えの際には、本人が分かりやすく、選択出来るような声かけの工夫をし、衣服を選んでもらえるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おかずの盛り付けやお茶を入れてもらったり、食材の皮むき等、出来る事があれば、お願いをしている。利用者と同じ食事を取ることで、会話も弾み、食事が楽しいと思ってもらえるよう努めている。食器洗いや、食器拭きもお願いをして、職員と一緒にしている。 (外部評価) 昼食時に食事が進まない利用者、隣の方が「それ食べな、おいしいよ」と声をかけ、それを職員が見守っている風景はほのぼのとして温かい。食後の食器拭き等、利用者の状態に応じて役目を果たしてもらっており、笑顔で雑談を交えて作業をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師・看護師と連携を取りながら、その人に合わせた栄養バランス、水分確保が出来るように支援している。一人ひとりの状態に合わせた、食事の支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯が無い利用者には、ハミングッドを利用し、清潔が保てるように支援している。口腔ケアが習慣になる様に、声かけの工夫をしている。入れ歯の方も定期的に、入れ歯洗浄剤を用い、清潔を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、おむつ使用や失禁の軽減に努力している。	
			(外部評価) 排泄の自立支援をホームの目標として掲げており、排泄チェック表等を通して利用者それぞれの排泄リズムを把握し、トイレへの誘導に力を入れている。また、水分摂取量等による変化や、気温の影響等による季節的な対応にも目を向けており、布パンツ、パッド、紙おむつ等を必要に応じて適切に使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のリズムを把握し、なるべく同じ時間帯にトイレ誘導し、マッサージなどを施すようにしている。食事もお通じを促すような食材を利用する等の努力をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。入浴を度々拒否される利用者に対して、声かけの工夫を行っている。また、仲の良い利用者同士が、一緒に入浴したり、好きな音楽を聴きながら、入浴を楽しめるような支援もしている。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多いため、それぞれの入浴のリズムが確立されており、それに沿った適切な入浴支援を行っている。「今からお風呂なの」と食後話しかけてきた利用者からは、入浴を楽しみにしている様子が感じられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の生活リズムを日々観察し、利用者のタイミングで快適な休息が取れるように支援している。その他、入浴後や行事等があった後は、利用者の負担を考え、休息が取れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書をいつでも職員が確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時等、様子観察が必要な時期については、状況の変化を職員全員が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員は日々の会話の中で、本人の生活歴や好みを観察し、本人の得意な事は、職員と一緒にいたりしている。時には、教えてもらったりしながら、本人の出来る力を引き出すような支援をしている。嗜好品も楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 室内に閉じこもってしまわないように、本人の希望に合わせ、散歩に出かけている。また、買い物支援も行い、希望がある人は、買い物へ出掛けたりもする。ご家族とお墓参り等出掛ける時も、ご家族と協力し合い、支援するようにしている。	
			(外部評価) 外出支援プロジェクトの成果が出ており、外出は日常的に行っている。職員は、利用者の気分転換には外出が重要であると考え、川を挟んでホームの前にある公園に出かけ、外気浴を気軽に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物支援では、職員が支払いをするのではなく、出来る限り自分で支払いが出来るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) なかなか会う事が出来ない子供や孫、友人たちとの関係が途切れないように、暑中お見舞い等を本人が作成できる機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 周りの景色が良いので、日中はカーテンを全部開けて、外の様子が一目で分かるようにしている。自分の目で見て、風を感じたり、山を眺めて季節を感じてもらえるように支援している。</p> <p>(外部評価) 全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、スペースが広いこともあり、開放的である。非常用の出入り口として増築した屋外階段の踊り場も見通しの良いベランダとなっているため、お茶を楽しむスペースにも活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの端にソファを置いたり、リビングから階段に抜けるホールに、ちょっとしたイスを置いて、利用者がいつでも気分転換出来るようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはエアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと大きなものは、ホームで用意した物を使って頂いている。その他馴染みの物の持ち込みは、制限していないので、本人や家族の希望により、自由に持ち込んで頂いている。</p> <p>(外部評価) ホームの備品としてベッド・洋服ダンス等が備え付けである。また、利用者の持ち込んだ家具類や、ホームでの生活の写真や絵なども飾られ、それぞれに特色のある部屋となっており、居心地よく過ごせる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 出来るだけ車イスに頼らない生活を送って頂くために、また廃用症候群の予防のため、配置や手すりの必要性などを細かに観察し、少しでも長く安全に自分の足で歩いて頂けるように配慮している。</p>	